

# 臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所

先生各位

平成 23 年 6 月

A-11-13

## 新規実施項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、下記の検査項目を新たに受託開始致しますので、ご利用頂きたくご案内致します。

今後とも引き続きお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

敬具

### 記

◆ 実施日 平成 23 年 5 月 28 日（土）ご依頼分より

◆ 新規項目

項目コード	検査項目
17230	ヒトパピローマウイルス (HPV) DNA 型判定 (ハイリスク 13 種)

詳細は次面をご覧ください。

●ヒトパピローマウイルス (HPV) DNA 型判定 (ハイリスク 13 種)

13 種類の高リスク型 HPV 遺伝子を、型 (ジェノタイプ) 別に検出いたします。

子宮頸癌は、高リスク型 HPV の持続感染により、前癌病変である★1 異形成の過程を経て発症することが判明し、「予防可能な癌」として、HPV ワクチンや定期的な検診の重要性が広く認識されるようになってきています。

このたび受託開始いたします本検査は、「癌」に移行する可能性のある異形成の段階において、HPV ハイリスク群の遺伝子型 (ジェノタイプ) を判定する検査として新たに★2 保険収載されました。

子宮頸癌は遺伝子型により臨床経過が異なり、ハイリスク群のなかでも特に、16、18、31、33、35、45、52、58 型は進展リスクが高いとされています。本検査により、前癌病変の初期の段階で、子宮頸癌の進展リスクに基づいた適切な治療法の選択が可能となります。また、患者個別のフォローアップが可能になり、今後さらに患者 QOL の向上が期待されます。

★1 子宮頸部上皮内腫瘍:

★2 事前の組織診断の結果が CIN1 (軽度異形成) 又は CIN2 (中等度異形成) と判定された患者に、治療方針の決定を目的とした場合、算定されます。

◆疾患との関連

- HPV 感染症
- 子宮頸癌

◆関連する主な検査項目

- 細胞診(婦人科) [ベセスダシステム]
- ヒトパピローマウイルス DNA(ハイリスクグループ)
- ヒトパピローマウイルス DNA(ハイリスクグループ)(LBC)

◆検査要綱

検査項目名	ヒトパピローマウイルス (HPV) DNA 型判定 (ハイリスク 13 種)	
項目コード No.	17230	
検査材料	子宮頸部	患部ぬぐい液
容器	保存液 LBC 用専用容器	滅菌ポリスピッツ
保存方法	室温保存して下さい。	必ず凍結保存して下さい。
保存安定性	室温保存で 1 日間	凍結保存で 1 ヶ月
検体取り扱い方法	綿棒以外の採取器具を用いて検体を採取します。細胞保存液 (10ml) の入った専用容器の蓋を開け、検体を採取した器具を保存液の中で強く浸透させ、検体を撈拌させます。専用容器の蓋をしっかり閉めて当日午前中にご提出下さい。	滅菌綿棒にて患部をぬぐい、指定の容器に入れ、必ず凍結保存してご提出下さい。
所要日数	7~10 日	
検査方法	電流検出型 DNA チップ法	
基準値 (単位)	陰性	
実施料	2000 点 (「D004-2」悪性腫瘍組織検査)	
判断量	150 点 (微生物学的検査)	
備考	曜日指定 検出可能な型は、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68 型です。受託可能日は月~金曜日です。 液状細胞診 (Liquid Based Cytology) 検体 (専用容器) は、室温で速やか (当日午前中) にご提出下さい。患部ぬぐい液は必ず凍結保存して、ご提出下さい。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 他項目との重複依頼は避けて下さい。	

【参考文献】

Takahashi M, et al: Chemistry 50 (3): 658~661, 2004. (検査方法参考文献)

Matsumoto K, et al: International Journal of Cancer 128 (12): 2898~2910, 2011.